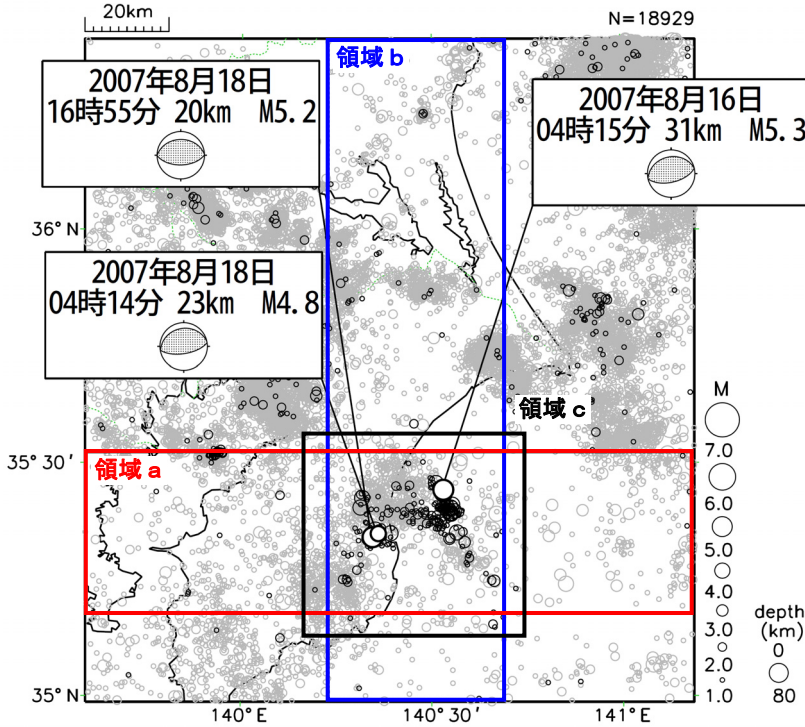


8月16日、18日 九十九里浜付近〔千葉県東方沖〕の地震

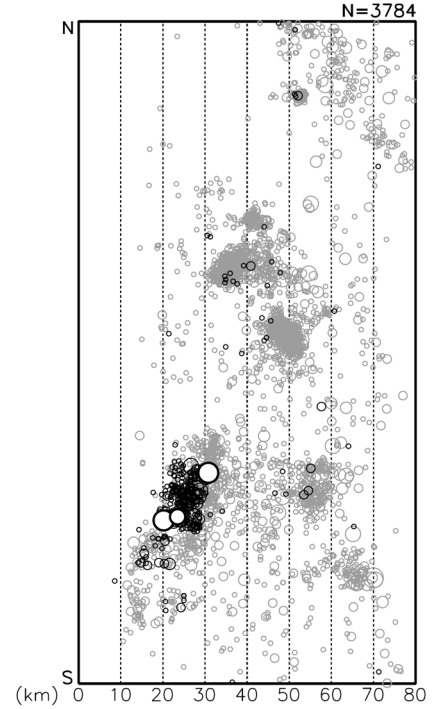
[]内は気象庁が情報発表に用いた震央地域名

震央分布図 (2002年1月以降、 $M \geq 1.0$ 、深さ0~80km)

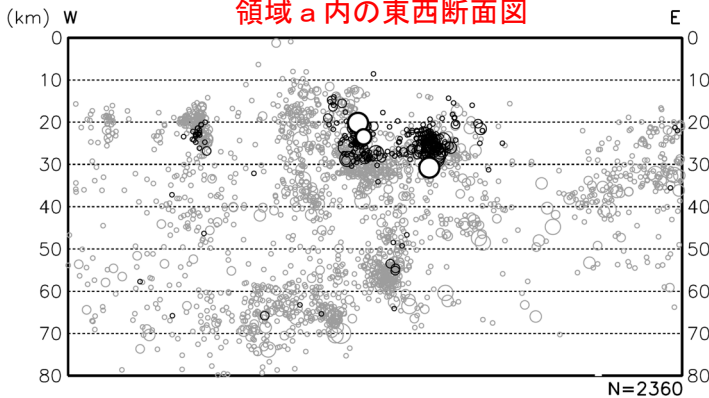
2007年8月1日以降を濃く表示



領域b内の南北断面図

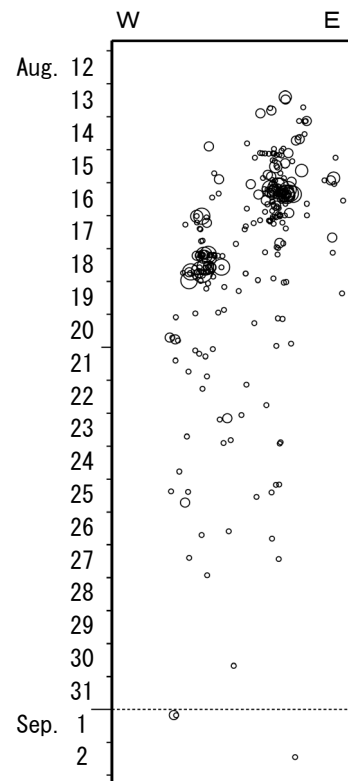


領域a内の東西断面図



領域c内の時空間分布図

(2007年8月12日以降、東西投影)



2007年8月16日4時15分に九十九里浜付近 (領域c) の深さ31kmでM5.3の地震があり最大震度4を、また18日4時14分にもM4.8の地震があり最大震度5弱を観測するなど、この領域では13日以降、数日間にわたって、やや活発な地震活動が続いた。発震機構は概ね北北西-南南東方向に圧力軸をもつ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界付近で発生した地震と考えられる。

なお、国土地理院のGPS観測網や、防災科研の傾斜観測などで、この地震活動と同期するスロースリップによる地殻変動が捉えられている。